

フレンズ

10月16日（木）、4年生が三宅島クリーンセンターを見学しました。三宅島で出るごみの多くは、この施設で焼却され、残った灰は八丈島の最終処分場へと運ばれます。三宅島で出たごみが、最終的には三宅島で処分されずに八丈島へ運ばれていることに子供たちは驚いていました。しかも、コンテナに積まれた灰は船に乗せて運ばれていきます。

三宅小で1年間に出た可燃ごみの重さと授業日数で計算すると、約25kg/日。児童と職員の人数約110名で換算すると、毎日一人あたり約240gの可燃ごみを出していることになります。（トイレトペーパー…1ロール分程の重さです）

八丈島の最終処分場は令和47年にはいっぱいになる見込みだそうです。現在の4年生が50歳になる頃です。今のままでは「もう捨てられない未来」が、そこまで来ているのです。これは、島の問題だけではないかもしれません。



学校では、2年生が図工の学習で「音作りフレンズ」という学習に取り組んでいました。お菓子の箱やペットボトル、ダンボールなど、本来なら

「ごみ」になるものを材料にして、楽器を作り出す学習です。トントンの、シャカシャカ、ポロロン。試行錯誤しながら、音を奏で素材のもつ新しい命を見付けていました。「不要となった物」を「楽しい音」に変える。モノづくりの原点を感じました。

一方で、授業を観ながら私の昭和脳が動き始めました。

80年代のレジェンドソング、衝撃的なボーカルの歌唱力。



三宅村小学校のゴミ排出量		
R6年度(R6.4~R7.3) 三宅村クリーンセンター持込実績 (単位: t)		
三宅村小学校	可燃	5.3
	不燃	0.4
学校給食共同調理場	可燃	5.7
	不燃	5.0
小学校関係合計	可燃	0.1
	不燃	5.1
小学校関係合計		10.8t

レベッカの名曲『フレンズ』 …ポケットのコインあつめて ひとつずつ夢をかぞえたね…

あの頃の歌には、派手な言葉よりもささやかな希望の輝きがありました。限られたものの中で夢を見つけ、与えられた環境の中で自分なりの光を探す。それは、便利さに囲まれた今よりも、もしかしたらずっと豊かな想像力と、誰かを思う温かさに満ちていたのかもしれません。

ごみを減らす工夫、ものを生かす知恵、音でつながる心。三宅島の子供たちの学びは、「ともに生きる」というメッセージを静かに、そして確かに響かせています。

三宅島にとって八丈島は三宅島の生活の一部を共有しているパートナーであり、いわば友達のような存在です。海を隔てても、同じ空の下で生きる仲間として支え合ってつながっています。

先日の台風22号により、八丈島では大きな被害がありました。学校や家屋の損壊、停電や断水など、今も復旧に向けて懸命に取り組まれていると聞いています。心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く穏やかな日常が戻ることを、三宅の地から願っています。

私たちができることは何か。考えていきます。